ボールミート様式が 3 ポイントシュート成功率に及ぼす影響

幸　寿成（競技スポーツ学科　コーチングコース）
指導教員　吉川　文人

キーワード：3 ポイントシュート，ボールミート様式，シュート成功率

1. 緒言

バスケットボール競技において，3 ポイントシュートを放つことができる能力が備わっている選手はプレイの選択肢が増え，ディフェンスとの駆け引きにおいて大きなアドバンテージを持つ．中でも，シュート技能に関する研究は様々な観点からなされている．

ゲーム中のシュート技能の研究例として，日下部ら(2007)は，NBA(1991～1992)のプレイオフ 33 試合を対象とし，シュート直前のプレイがインサイドからのパス(以下：I－O シュート)か，アウトサイドからのパス(以下：O－O シュート)か，あるいはドリブルから(以下：DR シュート)によってアウトサイドシュートを分類し，シュート成功率を集計・算出している．その結果，1)I－O シュート，O－O シュート，DR シュートでは，成功数，失敗数には有意な差は見られなかったことを報告している．しかしながら，シュート技能向上を図る上で，3 ポイントシュート時のボールミート様式に着目したパフォーマンスの研究がなされていない．

そこで本研究では，3 ポイントシュート時のボールミート様式に着目し，ストライドストップあるいはジャンプストップの差異やパスに対するミートの向きを分類・整理し，実際の試合映像を分析することにより，ボールミート様式と 3 ポイントシュート成功率との関係性を調査する．

2. 研究方法

分析対象は，2016 年度関西男子学生バスケットボール 2 部リーグ戦の本学との対戦カード全 13 試合である．3 ポイントシュートのシチュエーションをボールミート様式によって，①迎えミート，②引きミート，③その場でのミートに分け，さらにそれぞれのミート様式について，ストライドストップでシュートを打った場合とジャンプストップでシュートを打った場合に分類した．ストップ及びミートそれぞれの様式の組み合わせ間でシュート成功率に差があるか否かを確かめるために，二元配置の分散分析を行った．

3. 結果及び考察

図 1 で示す通り，引きミートにおいてストライドストップとジャンプストップ間でシュート成功率に有意差があった．試合映像の観察から，味方のスクリーンを上手く使いボールに対して引いてミートし，シュートを打っている選手が多く見られた印象であった．

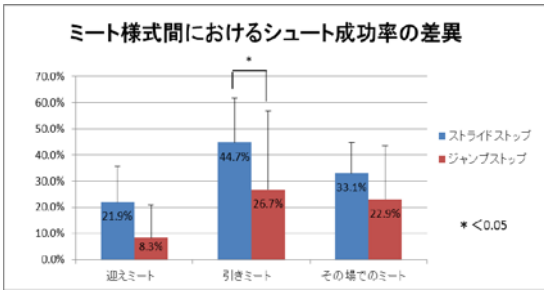

図 1．ミート様式間における
3 ポイントシュート成功率の差異

4. まとめ

この実験結果を踏まえ，引きミートでのストライドストップは有効な攻撃手段になるのではないかと見込まれる．

引用・参考文献

日下部未来　神林勲（2007）　バスケットボールにおけるアウトサイドシュートに関する一研究　年報いわみざわ：初等教育・教師教育研究　28：61－66